

中・四国支部の思い出

高知県 建設部門

右城 猛

(株)第一コンサルタンツ



1. まえがき

日本技術士会では、四国での会員数が今年の4月に300名を超える見込みがたったことから、中・四国支部が分離して新しく中国支部と四国支部が誕生することになりました。

平成15年に四県技術士会を立ち上げ、四国支部の分離独立に向けて準備を進めてきたことがようやく達成するという喜びがある反面、中国5県の皆様との交流の機会が薄れることになると思うと、幾ばくかの寂しさを禁じ得ません。

私の中・四国支部の皆様と一緒させていただいた行事のいくつかを思い起こし、ここに紹介させていただきます。

2. 支部創立40周年記念式典

私が高知県技術士会を代表して中・四国支部の幹事に初めて出たのは、平成17年12月3日の支部創立40周年記念式典のときでした。幹事会の後、記念式典と懇親会がありました。その後、広島県技術士会の皆様に誘っていただいてスナックに繰り出し、カラオケで楽しい一時を過ごさせていただきました。

翌日は、大和ミュージアムの見学会があり参加しました。館内に展示されている戦艦大和の十分の一の模型、海軍工廠の製作図面や論文集は見応えがあり、感動させられました。



記念式典後の懇親会。写真左は講演の講師をされた大和ミュージアムの戸高館長と香川県技術士会の武山会長。写真右は広島県技術士会の皆様と記念撮影。



二次会のスナックで肩を組んで青春歌を合唱



大和ミュージアムの見学会。ミュージアム入口広場に展示されている戦艦陸奥の主砲の前で記念撮影。

3. 産官学と技術士の合同セミナー

平成18年は高知県技術士会が発足して20年目、私が代表幹事に就任して5年目という節目の年でした。



中種町の「葉山」で食事

2月23日に牧山支部長と植田事務局長が揃って高知に来られ、「産官学と技術士の合同セミナー」を10月6日に高知で開催することになっている。高知県技術士会で企画準備をしてもらいたい」という要請がありました。

高知県技術士会の幹事会で検討した結果、「地震防災」をテーマにし、基調講演とパネルディスカッションのコーディネータは高知工科大学の中田教授に頼むことになりました。



合同セミナーで挨拶される牧山支部長と都丸会長



176名の参加者が高知開館の会場を埋め尽くす

パネリストは高知大学の大年教授，国土交通省高知河川国道事務所の岩見所長，高知県の宮崎土木部長，相愛の永野会長，高知新聞社の宮田編集局長にお願いし，技術士会からは私が出ることになりました。

パネリスト予定者が一同に会して事前打合せができたのは一度だけでしたが，中田教授のユーモアとウィットに富んだ名司会のお陰で会場全体がなごやかなムードに包まれ，フロアーからも活発に意見がだされました。

セミナーには高知会館の会場を埋め尽くす176名にご出席いただき，参加された皆様からとても有意義なセミナーであったと好評を博すことができました。セミナーの後は会場を別室に移し講師やパネリストの先生を交え，お酒を酌み交わしながら親睦を深めました。

異例のことであったと思いますが，懇親会の後で都丸会長にお願いし，四県技術士会の役員との座談会を開かせていただき，私たちの要望をお聞きいただくと共に，会長から貴重なお話を伺うことができました。

都丸会長には，東京からのお越しでお疲れであったにも関わらず二次会のスナックへもご同行いただきました。私たちが接待をさせていただき予定であったのですが，逆に私た

ちの飲み代まで会長に出していただき，会長のお心遣いに一同が感激させられました。

4. 通常総会

平成20年5月17日に広島グランドインテリジェントホテルで開催された通常総会の



後の懇親会では，
齊藤衆議院議員と牧山支部長
衆議院議員の齊藤

鉄夫先生が出席されており，来賓の挨拶をされました。齊藤先生とは初めてお目にかかりましたが，技術士と工学博士の資格をもっておられ，かつては建設会社の技術者であったということで親しくお話しをさせていただきました。その後，8月の福田改造内閣で環境大臣の要職に就かれたことを知り，わがことのように嬉しく感じたことでした。

5. 今後の抱負

中四国の各県技術士会が設立された昭和60年から63年は，昭和60年に第二次国土利用計画が発表され，「地方の時代」の幕開けを予感させる時期でした。地方であっても，仲間と一緒に力を合わせて努力すれば夢が叶えられるというムードがありました。

現在は，「コンクリートから人へ」が合い言葉になり，公共事業や社会資本整備が悪の根源であるかのような空気が漂っています。それがデフレスパイラルを加速させているように感じます。不況からの脱出には思い切った公共投資と技術革新が必要です。そのカギを握っているのが技術士であると思います。

四国支部の船出は決して順風満帆とはいえません。日本技術士会と県技術士会の会員一元化や四国支部と県技術士会の事業分担など課題山積ではありますが，会員に魅力のある組織にし，四県の技術士がこれまで以上に力を結集し，四国の発展に貢献することを念じています。